

## ● 東北

### 工藤 一郎

仙台市で3つの大型イベントが相次いで開催された。2001年から3年毎に行われている「仙台国際音楽コンクール(SIMC)」、2006年から毎年行われている「仙台クラシックフェスティバル(せんくら)」、2015年から毎年行われている「こどもの夢ひろば“ボレロ”～つながる・集まる・羽ばたく～」の3つがそれ。(内、SIMCは別項参照)

「せんくら」(主催:仙台市,仙台市市民文化事業団他)は14回目を迎え、10月4日～6日の3日間に行われた。スタート時からのコンセプト「幅広い層に気軽にクラシック音楽を楽しんでもらう」と、「地下鉄沿線4施設の10ホールで同時並行的に行われているコンサートを、聴衆が思い思いに選択して聴き歩く」という方式が支持されて、今や「せんくら」は仙台の秋の風物詩。若手から常連・ベテラン・長老までの出演者たちに加えて、これまで仙台市が推進してきた音楽文化政策(SIMC,仙台フィル,仙台ジュニアオーケ等)から輩出した人材も積極的に活用されるため、その顔ぶれと演目は多彩を極める。有料89公演に82組371名が出演し(内53公演がチケット完売)、他の関連事業(街なかコンサート,地下鉄駅コンサート)を含む計120公演に、延べ約37,600人の聴衆を集めた。

「こどもの夢ひろば“ボレロ”」(7月27・28日,日立システムズホール仙台/主催:同実行委員会,仙台市他)は5回目を迎えた。東日本大震災以来,被災地での演奏を続けているピアニスト・小山実稚恵が「心を癒すだけでいいのか?」との疑問を持った事から構想された。その思いはテーマ音楽＝ラヴェル「ボレロ」に象徴され、「ボレロ大集合コンサート」と各種イベントで構成される。小山自身がゼネラルプロデューサーを務め、指揮は第3回から連続して広上淳一。第4回からの管弦楽は宮城教育大学交響楽団と東京音楽大学学生を中心とした混成オーケストラ。それとの協演で小山と子供ピアニストの連弾も行われるなど魅力満載で、多くの親と子が心待ちにする夏休みの恒例行事となっている。

このような大型イベントが青森県八戸市にも根付きつつある。2000年に始まった「amfあじがさわ(青森県)ミュージックフェスティバル」は、その後開催地を函館市に移していたが、2018年から「イカール国際ミュージックキャンプin Hachinohe」[主催=NPO日本アーツプロジェクト]となつて東北圏に戻って来たのである。その2回目(通算では「第9回」)が65名の参加者を集めて8月14日～20日に行われた。

主な講師陣は《vn》谷本華子,永峰高志(ディレクター),松実健太(兼va)。《vc》金子鈴木太郎,ドミトリー・フェイギン,ルドヴィート・カンタ。《cb》佐川裕昭(八戸市出身)。《P》植田克己,上田晴子,及川浩治(ディレクター補佐,宮城県出身),岡田敦子,岡田奏。《fl》清水和高。「特別講師」として《P》ルーカス・ヴォンドラチェック(「エリザベート王妃記念国際音楽コンクール2016」の覇者)。《Cem》エリジビエタ・ステファンスカ。

受講生はレッスンだけでなく講師コンサート,ガラ・コンサート,修了コンサート等を通じて演奏の現場を体感し,一般市民もそれらを見学・鑑賞できる。そのためこの期間,八戸市内

は一種の“クラシック音楽フェスティバル”状態となる。2020年からは名称を「八戸イカール国際音楽祭」に変更し,その内容を一段と拡充する。

加えてこの年,八戸市に程近い青森県三沢市出身の沖澤のどかがプザンソン国際指揮者コンクールで優勝し,この地域に大きな喜びと希望をもたらした。

仙台フィルハーモニー管弦楽団は,常任指揮者=飯守泰次郎,レジデント・コンダクター=高関健,指揮者=角田鋼亮の体制が2年目に入った。前前任=バスカル・ヴェロのフランス,ロシア,アメリカ物指向から,ベートーヴェンを柱にした独逸系および東欧系の曲目に焦点を移し,表現の幅を広げている。8月4日には第15回記念「フェスタサマミューザKAWASAKI 2019」に,首都圏外のオケとしては初登場して高い演奏力を示した(指揮:高関健,ヴァイオリン:郷古廉)。

山形交響楽団は2019年度,それまで音楽監督だった飯森範親が芸術総監督となり,常任指揮者が阪哲朗,首席客演指揮者が鈴木秀美とラデク・パボラークという4指揮者体制となった。その存在が全国に知られるようになった山響アマデウスコア(合唱音楽監督:佐々木正利)とは2018年3月の第267回定期からブルックナーの宗教曲シリーズ(指揮:飯森)を開始し,その音楽性と精神性の更なる深まりを印象づけている。

以上2つのオーケストラの活動の場を更に広げそうなのが,JR山形駅西口に完成した山形県総合文化芸術館「やまぎん県民ホール」(2001席)。2017年から約2年間の建設工事を経て2020年3月29日に正式開館する。以後約1年間続くオープニング事業期間内の7月12日,ブルックナー「交響曲第8番」(指揮:飯森)で,両オケにとって久々の合同演奏が行われる。

「仙台オペラ協会第44回公演」(9月28・29日,東京エレクトロンホール宮城/芸術監督:佐藤淳一/演出:渡部三紗子/指揮:末廣誠,仙台フィル他)は,レハール「メリー・ウイドウ」。歌手陣の熱演に加えて衣裳,セット,舞踏などでも豪華さと娯楽性を演出し,多くの観客を楽しませた。

2014年にスタートした室内楽シリーズ「Music from PaToNa」[主催:仙台市宮城野区文化センター他/監修:三宅進(仙台フィル・ソロ首席チェロ)/プランナー:西沢澄博(同・首席オーボエ),助川龍(同・首席コントラバス)]が,厚い客層を築いて好調裏に継続中。近年,これに刺激された仙台フィル・山響両オケの若手メンバーたちが「Concert “A”」なる活動を開始して研鑽と発表の場としている。山形市では上記「…PaToNa」をヒントにした室内楽シリーズ「Music from Bun-Sho-Kan」[主催:文翔館室内楽シリーズ実行委員会/監修:ヤンネ館野(山響第2ヴァイオリン首席),小川和久(山響チェロ首席)]が2017年から行われている。

年末に弦楽器奏者のリサイタルが集中した。三宅進(vn/11月29日,PaToNaホール),西本幸弘(vn/12月13日,同),郷古廉(vn/12月22日,多賀城市民会館・大),吉岡知広(vc/12月23日,PaToNaシアター)。

作曲界では,東北の若い世代の作品を募集してプロの演奏家が演奏する「ヤングコンポーザーコンサートin東北」(主催:同実行委員会)は3回目となった(仙台市太白区文化センター)。

2011年3月26日に仙台フィルが市内の寺院で行ったコンサートを初回とする「復興コンサート」(主催:音楽の力による復興センター東北)は現在も継続開催中。

活動開始から7年が経つ相馬子どもオーケストラの「第5回こども音楽祭in相馬」(主催:エル・システムジャパン)には英国オックスフォード大学管弦楽団がゲスト出演し(3月24日,相馬市民会館),翌日には沿岸部の被災地を見学した。